

平成28年度事業報告

社会福祉法人 ロザリオの聖母会
共同生活援助事業所
ナザレの家あさひ

I 事業の概要

1 概括

今年度の大きな事について、まずは昨年度から継続していた新規ホームの開設について、ようやく物件が見つかり開設できたことが挙げられる。これによって定員が92名となり、海上寮や聖家族園からの利用者を受け入れることが出来た。生活が安定していくまではもうしばらく時間がかかると思うが、引き続き支援していきたい。

次に、今年度はお二人の方が高齢と病気に起因して亡くなられた。特にその内のお一人は、関係者とともに見取りの支援を行った。2年近く前より、このような状況が想定できたため様々な準備を重ねて取り組んだが、職員間の意志の共有や、関係機関との連携など、課題が幾つか残った。但し、本人は数十年会えていなかった息子さんに会えたりして、安らかに旅立つことが出来たので、今後も本人の意向に沿った支援は続けていきたい。また、現在いる利用者の中では高齢化が進んでおり、今後も同じような事が想定されるため、今回のような教訓を活かし、見取りの支援に取り組んでいきたい。

建物の修繕関係に関しては、大割ハウスの屋根・外壁等の修繕工事を行った。来年度は若衆内ハウスを予定しており、毎年のように大規模修繕が続くことになるが、今後も計画的に行っていききたい。また、消防設備として新しいパーッケージ型のスプリンクラーの設置工事を、中川・対馬ハウス、横大道ハウスと二つの建物に設置も行った。法令上の経過措置期間が来年度で終わってしまうため、来年度も残る建物の設置を行っていききたい。

2 施設（事業所）所在地 千葉県旭市野中4017

3 施設（事業所）開設年月日 平成18年10月1日

4 沿革

1996年（平成8年）	4月	1日	福祉ホーム野中ハイツ開設	定員10名
1997年（平成9年）	1月	23日	若衆内ハウス開設	定員15名
2003年（平成15年）	4月	1日	横大道ハウス開設	定員21名
2004年（平成16年）	10月	1日	中川ハウス開設	定員25名
2004年（平成16年）	11月	1日	菽園ハウス開設	定員29名
2005年（平成17年）	5月	1日	東足洗ハウス開設	定員34名
2005年（平成17年）	9月	1日	立野ハウス開設	定員38名
2006年（平成18年）	4月	1日	グループホーム支援室開設	
2006年（平成18年）	10月	1日	ケアホーム旭・グループホーム旭事業所指定 共同生活介護・共同生活援助事業開始 野中ハイツ 福祉ホームからグループホーム に変更 東町ハウス開設	定員44名
2007年（平成19年）	4月	1日	大割ハウス開設	定員49名
2007年（平成19年）	7月	1日	グループホーム支援センター開設 荒井 隆一が所長となる	
2007年（平成19年）	8月	1日	対馬ハウス開設	定員53名
2008年（平成20年）	3月	1日	下立ハウス開設	定員58名
2008年（平成20年）	7月	1日	東町ハウス転居	広原ハウスに改名

2009年(平成21年)	4月	1日	野中ハイツ定員10名から、野中ハイツⅠ定員5名・野中ハイツⅡ定員5名に変更。
2009年(平成21年)	9月	1日	生沼ハウス開設 定員61名
2011年(平成23年)	6月	1日	矢指ハウス開設 定員65名 震災に伴い立野ハウス転居(廃止) 西足洗ハウス開設
2012年(平成24年)	1月	1日	小割ハウス開設 定員67名
2012年(平成24年)	2月	1日	仲町ハウス開設 定員72名
2012年(平成24年)	5月	7日	下立ハウス 震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	6月	7日	野中ハイツ 震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	11月	5日	若衆内ハウス 世話人室・喫煙室増設
2014年(平成26年)	3月	27日	中川ハウス・対馬ハウス・東足洗ハウス・ 菘園ハウス 自動火災報知設備設置
2014年(平成26年)	3月	31日	下立ハウス スプリンクラー設備整備
2014年(平成26年)	4月	1日	折戸ハウスⅠ開設 定員77名
2014年(平成26年)	4月	1日	折戸ハウスⅡ開設 定員82名
2014年(平成26年)	7月	16日	横大道ハウス定員6名から定員7名に変更 定員83名
2015年(平成27年)	2月	1日	横大道ハウス定員7名から定員6名に変更 定員82名
2015年(平成27年)	2月	1日	折戸ハウスⅠ定員5名から定員6名に変更 定員83名
2016年(平成28年)	7月	1日	仲才ハウス開設 定員92名

5 実施事業及び利用者数

5-1 障害者総合支援法による指定事業

(1) 共同生活援助事業(介護サービス包括型)

(定員92名、平成29年3月31日現在の利用者数：84人)

- ア 野中ハイツⅠ(定員男性5人、平成29年3月31日現在の利用者数：5人)
千葉県旭市野中3622-2
- イ 野中ハイツⅡ(定員女性5人、平成29年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市野中3622-2
- ウ 若衆内ハウス(定員男性5人、平成29年3月31日現在の利用者数：5人)
千葉県旭市ニ3500-11
- エ 横大道ハウス(定員男性6人、平成29年3月31日現在の利用者数：6人)
千葉県旭市三川横大道7542-2
- オ 中川ハウス(定員男性4人、平成29年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県野中4070-2
- カ 菘園ハウス(定員女性4人、平成29年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市菘園1250-4
- キ 東足洗ハウス(定員男性5人、平成29年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市東足洗2277-1
- ク 西足洗ハウス(定員男性4人、平成29年3月31日現在の利用者数：4人)
千葉県旭市西足洗562-56
- ケ 広原ハウス(定員男性6人、平成29年3月31日現在の利用者数：6人)
千葉県旭市野中4075-4
- コ 大割ハウス(定員女性5人、平成29年3月31日現在の利用者数：5人)

- 千葉県旭市野中 3 8 1 1
- サ 対馬ハウス（定員 4 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：4 人）
千葉県旭市野中 4 0 7 0 - 2
 - シ 下立ハウス（定員男性 5 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：5 人）
千葉県旭市野中 3 6 2 5 - 1
 - ス 生沼ハウス（定員女性 3 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：3 人）
千葉県旭市イ 1 6 9 4 - 8
 - セ 矢指ハウス（定員 4 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：4 人）
千葉県旭市野中 3 8 1 1 - 2
 - ソ 小割ハウス（定員男性 2 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：1 人）
千葉県旭市野中 3 8 5 0 - 6
 - タ 仲町ハウス（定員男性 5 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：3 人）
千葉県旭市ロ 8 9 7
 - チ 折戸ハウスⅠ（定員 6 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：6 人）
千葉県旭市野中 3 9 8 5 - 4
 - ツ 折戸ハウスⅡ（定員 5 人、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：4 人）
千葉県旭市野中 3 9 8 5 - 4
 - テ 仲才ハウス（定員 9 名、平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の利用者数：7 人）
千葉県旭市ニ 2 4 9 1 - 1

6 職員構成

別紙 1 のとおり（平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の職員数）

7 組織図

別紙 2 のとおり（平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の組織図）

8 2 8 年度重点目標実施報告

8 - 1 福祉・医療の情勢や動向を注視しつつ施設・事業所の安定的運営に努めるについて

ア) 情勢を踏まえた施設・事業所の課題と展望について

利用者の高齢化や重度化に対応するため、中川ハウス・対馬ハウスに入浴用リフト、矢指ハウスに移動用リフトを導入した。終末期の対応においては、訪問看護事業所等と連携し個々の暮らしを支えた。職員配置に関しては、常勤職員 2 名の増員を行い、組織体制の充実を行った。世話人の確保については、夜間勤務職員を充足していきかけたが、求人者が集まらない状況もあり充足できなかったため、来年度も引き続き募集を行っていききたい。

イ) 計画的な人事異動及び中間管理職の育成・登用について

中間管理職の確保が出来ていない状況が続いている。来年度以降、法人内外からの登用を重点的に行なっていききたい。

ウ) 安定的な人材確保について

常勤職員 2 名を新たに雇用することが出来ている。人材確保については、日中職員に関しても集まりづらい状況と、夜間勤務職員の求人を継続して行わなければならない状況とな

っている。実習を終えた学生の非常勤雇用を行ったが、安定した勤務には繋がらなかったため、来年度以降も学校のカリキュラムに配慮をしながら求人を行っていきたい。

エ) 職員の身分保障の向上について

適切な人員配置の見直しについては、常勤職員を2名増やしている。身分保障の見直しについては、介護職員処遇改善事業の加算を活用し、職員に支給を行った。

オ) 施設・設備の老朽化や環境改善対策の中・長期計画と資金確保について

建物の老朽化対策として、大割ハウスの屋根外壁等修繕工事を計画通り行った。

消防設備整備として、中川ハウス、対馬ハウス、横大道ハウスに、スプリンクラー設備(パッケージ型自動消火設備Ⅱ型)を千葉県障害者グループホーム整備費補助事業による補助を受け整備することが出来た。スプリンクラー設備については、消防法の改正に伴い、対象となるハウスが他にも数か所あるため、次年度も引き続き整備していく。また、火災通報装置及び自動火災報知設備整備を広原ハウスに行った。しかしながらスプリンクラー設備整備を最優先に行ったことにより、予算や日程の確保が難しくなってしまう、野中ハイツⅠ・Ⅱへの火災通報装置及び自動火災報知設備整備、萩園ハウス他4カ所における既設火災通報装置の連動型への切り替え工事計画を次年度へ持ち越すこととなった。このことについては、新年度早々に計画を遂行したい。

職員の支援時の負担を軽減するため、入浴用の介護リフトを昨年度の矢指ハウスに引き続き中川ハウスと対馬ハウスに導入した。なお、リフトの導入にあたっては、千葉労働局職場定着支援助成金(介護福祉機器等助成)による助成を受け整備している。

建物や設備の老朽化対策については、引き続きハウスの屋根や外壁の修繕や、利用者の高齢化等によるADLの低下、利用者個々の特性などに対応するための生活環境の改善を行っていきたいと考えている。

カ) 社会福祉法人新会計基準移行後の円滑・正確な運用と専決事項の徹底について

法人本部をはじめ関係施設、事業所との情報の交換などを心掛け、適正且つ円滑な会計処理を行うよう努めた。次年度は社会福祉法人法の改正による規程の変更などが行われるため、より一層法人本部との連携を密にし、財務規律の強化や透明性の高い会計処理を行えるよう努めていく。

キ) 給与事務の法人本部一元化について

職員の給与に係る変更事項が生じた場合には、速やかに本部へ伝達をするよう努めた。次年度以降も、変更が生じた場合に速やかに知らせてもらえるよう、世話人会議等を通じて定期的に呼びかけを行っていく。

ク) 新規グループホームの開設について

平成28年7月から仲才ハウスを開設している。

8-2 社会福祉法人に求められる課題を踏まえつつ利用者等のサービスの質向上に努めることについて

ア) 地域医療・福祉への取り組みについて

今年度は仲才ハウスの新規開設等により、計画に予定されていた7名の新規利用者が入居している。20代から70代までの利用者が新たに入居しており、利用者個々の状態に合わせた支援を組み立てるために、関係機関とケース会議を複数回行っている。一事業所で抱え込まないように、多職種でのチームアプローチを継続している。

触法障害者の受け入れについては、医療関係者の協力を受けながら支援を継続している。病状の変化について些細なことも共有し、利用者の変化に対応できるように努めている。

イ) 権利擁護、虐待防止、差別解消に向けた取り組みについて

虐待防止委員会を新たに組織し、虐待防止体制を継続して整えている。法人内の他事業所との連携は行えていないので、来年度の課題になっている。世話人会議において、虐待の予兆や発生に気づくために早期発見チェックリストの活用を行った。外部機関によるグループホームの巡回は実施できなかったため、来年度は行えるように努めていく。

ウ) 専門性や特徴のあるサービスの実施について

医療的ケアや終末期の対応においては、新たに喀痰吸引等事業者登録を行い、吸引が必要な利用者の支援を行った。また、病院関係者や介護保険事業者と連携し、看取りの支援を行った。触法障害者の支援については、保健・医療・福祉のみならず司法関係者とも連携し対応を継続している。

エ) 自己評価、第三者評価結果に基づく業務改善

福祉サービス共通基準の評価において、「利用者の相談や苦情受付の仕組み」の項目が低かったため、ホーム内に新たなポスターを掲示し、ホーム内のミーティングで周知をおこなった。職員行動規範においては、「利用者の入浴、衣服の着脱、排泄、生理等は同性介助を原則とする。」となっているが、男性職員の新規採用は行えていないため、来年度の課題となっている。

オ) サービス提供上必要な事項の全体的点検と基本的事項の順守について

緊急時対応マニュアルの作成は行ったが、事故や急病を想定しての訓練は行えていないため、来年度の課題である。感染症の予防については世話人会議で研修を行ったが、安全衛生管理規程及び感染症予防マニュアルの確認には至っていないため、来年度の世話人会議で研修を行っていききたい。

カ) 研修体制及び内容の充実について

内部研修（OJT）に関しては、毎月世話人会議で研修を行った。外部研修（OFFJT）の機会については、勤務調整を行うなどして、昨年度よりも多い研修の機会を確保できた。

キ) 苦情解決の仕組みの周知徹底と適切な解決について

ポスターの掲示や各ハウスミーティング等での周知を行った。

契約時に丁寧に説明し、相談機関が複数ある事を伝え、利用者や家族が問題を抱え込み長期化・深刻化しないように周知している。

ク) 地域のニーズに合わせたサービスの展開について

仲オハウスの新規開設等により、海上療養所からの退院支援、特別支援学校からの卒業生受け入れ、触法障害者の受け入れを行うことが出来た。ファミリーホームについては、来年度に実際に事業を行っている事業所の視察を行っていききたい。

8-3 法人の総合的な安全衛生対策の向上について

ア) 法人全体の防災・防犯対策の向上と地震・津波への備えについて

年2回の防災訓練と法人合同防災訓練を実施した。6月の火災想定避難訓練においては、消防団と連携して放水の訓練を行っている。3月の夜間地震津波想定避難訓練においてはターボリン担架を使用し、2階への避難を訓練する予定だったが、悪天候だった為中止している。救命胴衣を着用し、避難方法の確認を行っている。セコムとは継続契約をしており、防犯シールを貼り防犯対策をしている。消防設備の点検については、防災設備会社と契約し年2回の点検を行った。火災対策として、横大道ハウス・中川ハウス・対馬ハウスにスプリンクラーを設置、仲オハウス、広原ハウスに火災通報装置・自動火災報知設備を設置した。

イ) 利用者等安全対策の向上について

利用者の身体機能に応じて、手すりの設置、センサーライトの設置を必要に応じて行った。

ウ) 職員メンタルヘルスの対策の向上について

職場環境の特性として孤立化しやすく、職員自身のセルフケアも大事になるため、来年度はメンタルヘルスの研修を行っていききたい。

エ) 安全運転対策の向上について

春と秋の全国交通安全週間期間中の、のぼり旗の設置や6月の交通安全講習の実施など、年間を通し安全運転に関する注意喚起を行った。

年間を通して5件の車両事故があった。対人についての事故はなかったが、日常的に車を使用するの支援が多いため、日頃から注意喚起を行った。

オ) IT・情報管理対策の向上について

外部からウイルスの入ったメールが送られてくる事があった為、覚えのないアドレスからのメールを開かないよう事業所内で徹底した。

ウイルス等の感染対策として、3月よりUSBメモリ等の使用制限を法人全体で行った。また、利用者の個人情報外部からの人間にみられないよう、保管場所や保管方法についての確認・徹底を事業所内で行った。

9 その他の報告事項

9-1 建物に係る修繕及び工事

(1) 大割ハウス屋根外壁等修繕工事

大割ハウスの建物について、昭和47年4月建築後44年が経過し、屋根や外壁等に経年による老朽化が目立つことに加え、平成23年に起こった東日本大震災時に地盤沈下による被害を受け、ジャッキアップによる復旧工事を行った。しかし天井や床、壁等各所に破損や傷みが認められることから修繕工事を計画した。

なおこの計画については、工事に係る費用が250万を超えることが見込まれたため、理事会において計画の承認と入札に関する諸手続きなどを審議したうえで工事を施工した。

28. 9. 28 第203回理事会（計画、入札方法（指名競争入札））

28. 11. 30 第204回理事会（入札参加業者の選定）

29. 1. 10 入札（落札業者 株式会社伊藤工務店）

29. 1. 25 第206回理事会（契約）

29. 1. 31 契約

29. 3. 31 完成

工事金額 8,748,000円（自己資金）

なお、当該工事の設計管理業務については、佐藤建築設計室と契約を行った。

28. 9. 21 契約

設計管理料 358,560円（自己資金）

(2) 中川ハウス・対馬ハウス・横大道ハウススプリンクラー設置工事

平成25年12月改正消防法施行令のスプリンクラー設備の設置基準改正に伴い、グループホームにおける設置義務基準（六項（ロ））に該当するホームでは、平成30年3月末日までに整備することが義務付けられている。これにより、中川ハウス、対馬ハウス、横大道ハウスにおいて、スプリンクラー設備を整備することとなった。なお、この計画については、それぞれ工事に係る費用が250万を超えることが見込まれるものの、設置を検討している機器等について、特殊な技術等を要するもの（パッケージ型自動消火設備Ⅱ型）にあたるため、見積もり合わせによる随意契約としたいこと等を含む計画について理事会にて審議を行い承認された。しかし計画を進めている中で、当初設置を予定していた器具に建物の天井高に係る制限があり、予定していた3カ所の建物すべてに設置が難しいことが判明した。そのため、パッケージ型の別器具（エスピーアウルミニ）に変更し、整備内容及び契約金額の変更について再度理事会にて報告し、承認され整備を行うこととなった。

なお、当該工事の費用について、千葉県障害者グループホーム整備費補助金の補助を受け整備を行っている。

28. 11. 30 第204回理事会

（中川ハウス・対馬ハウス、横大道ハウススプリンクラー整備及び契約方法について）

29. 1. 25 第206回理事会

（中川ハウス・対馬ハウス、横大道ハウススプリンクラー整備及び契約の金額及び仕様変更について）

29. 2. 1 契約（有限会社山崎防災設備）

29. 2. 6 着工

29. 3. 31 完成

工事金額

中川ハウス・対馬ハウス

2,808,000円（平成28年度障害者グループホーム整備費補助金）

2, 808, 000円 (自己資金)
合計 5, 616, 000円

横大道ハウス

2, 241, 000円 (平成28年度障害者グループホーム整備費補助金)
2, 241, 000円 (自己資金)
合計 4, 482, 000円

(3) 中川ハウスリフト付きシャワーキャリー導入及び浴室改修工事

職員の介護負担軽減等を目的として、中川ハウスにリフト付きシャワーキャリーを導入した。また、導入を計画しているリフトの仕様に合わせた浴室等の改修を行った。

28. 6. 15 ナザレの家あさひ経営会議起案
28. 7. 19 決裁
28. 7. 20 契約 (パラメディカル株式会社)
28. 7. 21 着工
28. 9. 13 設置

工事金額

(リフト付きシャワーキャリー)
562, 500円 (職場定着支援助成金 (介護福祉機器等助成))
589, 500円 (自己資金)
合計 1, 152, 000円

(介護浴室システム)

合計 1, 165, 320円 (自己資金)
なお、当該機器の導入にあたり既存の浴室の解体等の修繕も行った。

28. 8. 16 契約 (株式会社伊藤工務店)
28. 8. 26 完了

工事金額 399, 600円 (自己資金)

(4) 対馬ハウスリフト付きシャワーキャリー導入及び浴室改修工事

職員の介護負担軽減等を目的として、対馬ハウスにリフト付きシャワーキャリーを導入した。また、導入を計画しているリフトの仕様に合わせた浴室等の改修を行った。

28. 6. 15 ナザレの家あさひ経営会議起案
28. 7. 19 決裁
28. 7. 20 契約 (パラメディカル株式会社)
28. 7. 21 着工
28. 9. 13 設置

工事金額

(リフト付きシャワーキャリー)
562, 500円 (職場定着支援助成金 (介護福祉機器等助成))
589, 500円 (自己資金)
合計 1, 152, 000円

(介護浴室システム)

合計 1, 196, 640円 (自己資金)
なお、当該機器の導入にあたり既存の浴室の解体等の修繕も行った。

28. 7. 27 契約 (株式会社伊藤工務店)
28. 8. 6 完了

工事金額 399,600円(自己資金)

(5) 仲才ハウス防災設備設置工事

今年度新規開設した仲才ハウスにおける防災設備として、自動火災報知設備と火災通報装置の設置を行った。

28. 7. 19 決裁
28. 7. 19 契約(有限会社山崎防災設備)
28. 7. 21 設置
28. 7. 26 完了(消防検査)

工事金額 626,400円(自己資金)

(6) 広原ハウス防災設備設置工事

今年度の防災に係る設備整備として計画した、広原ハウスの自動火災報知設備と火災通報装置の設置を計画通りに行った。

28. 12. 5 決裁
28. 12. 22 契約(有限会社山崎防災設備)
29. 2. 1 設置
29. 2. 6 完了(消防検査)

工事金額 583,200円(自己資金)

10 1年のあゆみ

28. 4. 1 辞令交付式
4. 9 いちご狩り
6. 4 安全運転講習会
6. 4~5 第13回日本グループホーム学会・沖縄大会
6. 4~5 大割ハウス二泊旅行(沖縄)
6. 16~17 対馬ハウス一泊旅行(神奈川・市原)
6. 21~22 全ホーム防災訓練
7. 30 夕涼み会
8. 30 ミュージックフェスティバル
9. 7 合同防災訓練
9. 14~16 国サービス管理責任者研修
9. 25 第26回ロザリオ福祉まつり
10. 3~10. 20 城西国際大学実習生2名(2週間)受け入れ
10. 5 創立記念行事
10. 20~21 西足洗ハウス一泊旅行(水戸・大洗)
10. 31~11. 16 城西国際大学実習生2名(2週間)受け入れ
11. 9 野中ハイツI日帰り旅行(筑波山)
11. 15~17 敬愛大学横芝高等学校実習生1名(3日間)受け入れ
11. 22 千葉県監査
12. 3 障害者週間行事
12. 10 千葉県障害者グループホーム大会
12. 15~16 県サービス管理責任者研修
12. 28 もちつき大会
29. 1. 4 新年挨拶会

- 2. 14～16 サービス管理責任者フォローアップ研修
- 3. 1 合同研修会
- 3. 3 若衆内ハウス日帰り旅行（袖ヶ浦）
- 3. 13～16 美作大学実習生2名（4日間）受け入れ
- 3. 21～22 全ホーム防災訓練
- 3. 28 西足洗ハウス日帰り旅行（袖ヶ浦）

Ⅱ 利用者の概要

1 ナザレの家あさひ

1-1 利用者の平均年齢

53.8歳

1-2 日中活動の状況

就労 2人、生活介護施設 18人、就労継続B型施設 17人、
高齢者デイサービス 3人、その他 43人

移動支援 16人、行動援護 2人、重度訪問介護 3人、身体介護 2人

*重複あり

1-3 出身地の状況

旭市 23人、市原市 1人、香取市 2人、匝瑳市 7人、山武市 3人、
千葉市 3人、銚子市 16人、東金市 1人、東庄町 2人、成田市 1人、
船橋市 3人、松戸市 1人、四街道市 1人、

東京都（江東区 3人、渋谷区 1人、台東区 1人、江戸川区 1人、
中央区 1人、板橋区 1人、八王子区 1人、目黒区 1人）

茨城県 1人、横芝光町 2人、習志野市 1人、

茂原市 3人、勝浦市 1人、市川市 1人、多古町 1名、埼玉県 1名

計 29区市町

1-4 障害支援区分

非該当 4人、区分1 2人、区分2 19人、区分3 22人、

区分4 15人、区分5 12人、区分6 10人

平均障害程度区分 3.45

1-5 入退去の状況

入居 9名

病院より 7名

施設より 2名

退去 3名

他施設へ 1名

逝去 2名

2 ホーム別概要

2-1 野中ハイツI

(1) 利用者の年齢

44歳 1人、64歳 1人、65歳 1人、66歳 1人、57歳 1人

平均年齢 59.2歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型施設 1人、その他4人

(3) 出身地の状況

旭市 2人、銚子市 2人、匝瑳市 1人

- (4) 障害支援区分
区分4 1人 区分2 1人、区分3 3人
- 2-2 野中ハイツⅡ
- (1) 利用者の年齢
52歳 1人、59歳 2人、61歳 1人
平均年齢 57.7歳
- (2) 日中活動の状況
就労B型就労施設 1人 その他 3人
- (3) 出身地の状況
旭市 2人、銚子市 1人、匝瑳市 1人、
- (4) 障害支援区分
区分2 1人、区分3 3人、
- 2-3 若衆内ハウス
- (1) 利用者の年齢
30歳 1人、42歳 1人、67歳 2人、66歳 1人
平均年齢 54.4歳
- (2) 日中活動の状況
その他 3人、就労継続B型施設 2人
- (3) 出身地の状況
旭市 1人、東庄町 1人、茂原市 1人、銚子市 1人、東京都 1人
- (4) 障害支援区分
非該当 1人、 区分2 1人、区分 3 3人
- 2-4 横大道ハウス
- (1) 利用者の年齢
37歳 1人、45歳 1人、50歳 1人、54歳 1人、58歳 1人
61歳 1人
平均年齢 42.5歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 3人、生活介護施設 3人
- (3) 出身地の状況
旭市 4人、銚子市 2人
- (4) 障害支援区分
区分4 4人、区分5 2人

2-5 中川ハウス

(1) 利用者の年齢

40歳 1人、46歳 1人、60歳 1人、66歳 1人

平均年齢 53歳

(2) 日中活動の状況

生活介護施設 3人、その他 1人

(3) 出身地の状況

香取市 1人、匝瑳市 1人、山武市 1人、船橋市 1人

(4) 障害支援区分

区分5 2人、区分6 2人

2-6 萩園ハウス

(1) 利用者の年齢

40歳 1人、41歳 1人、51歳 1人、69歳 1人

平均年齢 40.2歳

(2) 日中活動の状況

就労 1人、生活介護施設 2人、高齢者デイサービス 1人

(3) 出身地の状況

旭市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、四街道市 1人

(4) 障害支援区分

区分4 3人、区分5 1人

2-7 東足洗ハウス

(1) 利用者の年齢

41歳 1人、55歳 1人、64歳 1人、71歳 1人、

平均年齢 57.7歳

(2) 日中活動の状況

生活介護施設 4人

(3) 出身地の状況

匝瑳市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、東金市 1人、

(4) 障害支援区分

区分5 2人、区分6 2人

2-8 西足洗ハウス

(1) 利用者の年齢

39歳 1人、58歳 2人、77歳 1人

平均年齢 58歳

(2) 日中活動の状況

就労1人 その他 3人

(3) 出身地の状況
山武市 1人、銚子市 1人、成田市 1人、船橋市 1人

(4) 障害支援区分
区分1 1人、区分2 1人、区分3 2人

2-9 広原ハウス

(1) 利用者の年齢
40歳 1人、63歳 1人、65歳 1人、68歳 1人、
69歳 1人、72歳、1人
平均年齢 62.8歳

(2) 日中活動の状況
生活介護 1人、高齢者デイサービス 1人、その他 4人

(3) 出身地の状況
旭市 1人、銚子市 2人、市原市 1人、習志野市 1人、船橋市 1人

(4) 障害支援区分
区分3 3人、区分4 2人 区分5 1人

2-10 大割ハウス

(1) 利用者の年齢
45歳 1人、65歳 1人、77歳 1人、80歳 1人、88歳 1人
平均年齢 71歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 4人

(3) 出身地の状況
旭市 1人、東京都 3人、茨城県 1人

(4) 障害支援区分
非該当 1人、 区分2 2人、区分3 1人、区分4 1人

2-11 対馬ハウス

(1) 利用者の年齢
26歳 1人、55歳 1人、64歳 1人、80歳 1人
平均年齢 56.2歳

(2) 日中活動の状況
生活介護施設 3人、高齢者デイサービス 1人

(3) 出身地の状況
旭市 3人、埼玉県 1人

(4) 障害支援区分
区分2 1人、区分5 1人、区分6 2人

2-12 下立ハウス

- (1) 利用者の年齢
38歳 1人、46歳 1人、58歳 1人、
68歳 1人、86歳 1人
平均年齢 59.2歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 4人
- (3) 出身地の状況
銚子市 1人、香取市 1人、旭市 1人、匝瑳市 1人
横芝光町 1人
- (4) 障害支援区分
区分3 2人、区分4 2人、区分6 1人

2-13 生沼ハウス

- (1) 利用者の年齢
22歳 1人、66歳 1人、19歳 1人
平均年齢 35.6歳
- (2) 日中活動の状況
その他 3人
- (3) 出身地の状況
旭市 2人、松戸市 1人
- (4) 障害支援区分
区分2 1人 区分4 1人 区分5 1人

2-14 矢指ハウス

- (1) 利用者の年齢
43歳 1人、52歳 1人、57歳 1人、66歳 1人
平均年齢 54.5歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型 1人、生活介護施設 1人、その他 2人
- (3) 出身地の状況
旭市 2人、銚子市 1人、茂原市 1人
- (4) 障害支援区分
区分4 1人、区分6 3人

2-15 小割ハウス

- (1) 利用者の年齢
30歳 1人
平均年齢 30.0歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型(週1日午前中のみ) 1人

(3) 出身地の状況
銚子市 1人

(4) 障害支援区分
区分5 1人

2-16 仲町ハウス

(1) 利用者の年齢
59歳 1人、68歳 1人、71歳 1人、
平均年齢 66歳

(2) 日中活動の状況
その他 3人

(3) 出身地の状況
勝浦市 1人、市川市 1人、東京都 1人

(4) 障害支援区分
区分2 2人、区分3 1人

2-16 折戸ハウスI

(1) 利用者の年齢
49歳 1人、50歳 1人、59歳 2人、67歳 1人、71歳 1人
平均年齢 59.1歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 2人、その他 4人

(3) 出身地の状況
多古町 1人、東京都 2人、千葉市 1人、銚子市 1人、茂原市 1人

(4) 障害支援区分
区分1 1人 区分2 3人 区分3 1人 非該当 1人

2-16 折戸ハウスII

(1) 利用者の年齢
30歳 1人、44歳 1人、60歳 1人、66歳 1人
平均年齢 50歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 3人、その他 1人

(3) 出身地の状況
旭市 2人、匝瑳市 2人、山武市 1人

(4) 障害支援区分
非該当1人、区分2 2人、区分3 2人

2-17 仲才ハウス

- (1) 利用者年齢
23歳 1人、31歳 1人、60歳 1人、66歳 1人、68歳 1人、
73歳 2人、
平均年齢56.2
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、生活介護 1人、その他 5人
- (3) 出勤地の状況
東京都 3人、横芝光町 1人、銚子市 1人、旭市 1人、東庄町 1人
- (4) 障害支援区分
区分5 1人、区分3 1人、区分2 5人

Ⅲ 支援の概要

1 日課等

利用者個々の状況に合わせて、以下の支援の提供を関係者と協力しながら行った。

- (1) 利用者に対する相談
- (2) 食事の提供
- (3) 健康管理・金銭管理の援助
- (4) 余暇活動の支援
- (5) 緊急時の対応
- (6) 職場等との連絡・調整
- (7) 財産管理等の日常生活に必要な援助
- (8) 食事や入浴、排せつ等の介護等
- (9) 体験利用

2 部門別報告

2-1 管理者・サービス管理責任者

組織体制については、4月に役割分担を明確化しそれぞれの職員が自分の役割を認識し、効率化出来るように取り組んだ。

相談支援事業所と連携し、個別支援計画を作成し、必要に応じてケース会議を行い、利用者が主体的に生活出来るように努めた。関係機関との連携が増えたことにより、伝達事業所も増え、状況によって伝達が行き届かないというようなケアレスミスもあったため、来年度はそのような事が起きないように努めたい。

様々な利用者のニーズに対応するため他機関との連携を行った。それぞれの立場を理解しながらも利用者の意向を大切にし、利用者にとって最善の支援を来年度も行っていきたい。

2-2 世話人・生活支援員

相談支援専門員とも連携し、個別支援計画をもとに支援を行った。ケース会議には世話人・生活支援員にも参加を呼びかけ、支援方法の共有や課題の解決策を検討した。法人外研修については、昨年度よりも多くの方が研修に参加することが出来た。来年度も引き続き勤務調整をするなどして参加の機会を作り、支援の質を高めたい。

安全対策においては、夜間想定津波避難訓練を実施し、最悪の状態では利用者・世話人が安全に避難できる方法を検討した。

様々な利用者に対応するため、課題を世話人が抱え込まないように複数の関係者が一人の利用者を支援している。利用者への支援に迷いがあるときは、病院との連絡会や訪問看護時に意見を交わす機会が作れている。

医療的ケアに対応するため、対象となるホームの世話人は喀痰吸引研修の受講を修了し、支援を行った。

2-3 事務員

今年度末に事務職員を1名増員し計3名となった。これは、年度途中で新規グループホームを1か所開設し、利用者定員92名、職員数50名を超え、業務量が増えたことが理由だが、なかでも金銭管理サービスを希望する利用者が49名となり、金融機関との業務処理だけでも相当な件数になってきているためである。

起因のひとつにもなるが、残念な報告として年末に利用者の金銭管理について、小遣い帳残高と現金が合わないという事案が発生してしまった。事業所における預り金規程に沿った処理が行われていなかったことが判明し、ご本人へ説明と謝罪、弁償をさせていただき容赦していただいている。

金銭の取扱いについては、事業所として世話人会議等を通じては年に数度、それに限らず機会のある毎に全職員を対象に周知してきたにもかかわらず、このような事態になってしまった。そのため、早急に金銭管理について見直しを行い、関係者の協力を得て現金の取扱い限度額を設けるなどの改善を行うとともに、あらためて職員個々が責任をもって金銭管理業務にあたるよう周知徹底をした。

研修については、昨年に引き続き日本グループホーム学会の研修と法人内の事務研修に参加した。日本グループホーム学会の研修では、沖縄という離島や戦争の被害を受けた地での支援や、障害福祉施策をめぐる動向、グループホームにおけるスプリンクラー設備整備の義務化に係ることなどを学んだ。法人内研修では、法人職員による、事務員としての心構えや経理や人事労務に関することなど、基礎的なことを学んだ。様々な研修に参加する事は、日常の業務に追われて疎かにしてしまいがちな利用者との関わりや職務に必要な知識など、基本的な事柄をきちんと学ぶ機会を持てるため、今後も積極的に参加できるようにしていきたい。

建物や設備等の老朽化や生活環境の整備においては、今年度も屋根外壁等の修繕工事、職員の身体への負担軽減対策として、千葉労働局の職場定着支援助成金（介護福祉機器等助成）を受け、入浴用介護リフトの導入を実施した。

防災関係では、新規開設した仲才ハウスと広原ハウスに自動火災報知設備・火災通報装置設備を設置するとともに、各ホームの世話人室に防災カーテンの設置を完了させた。

さらには改正消防法施行令によるスプリンクラー設備の設置義務基準要件に伴い、千葉県障害者グループホーム整備費補助金（スプリンクラー設備整備）を受け、中川ハウス、対馬ハウス、横大道ハウスに、パッケージ型のスプリンクラー設備を整備した。

これら防災関係については、次年度以降も引き続き整備を計画しているが、整備には資金の確保に加え、工事に必要な日程の調整も要することから、今年度の経験を基に、無理や無駄が生じないように計画を遂行できるようにしていきたい。

次年度以降は、業務内容の増量と煩雑化に加え、社会福祉法人の制度改革にも対応すべく、知識の習得や情報収集なども行っていきたい。また、事務職員間での報告、連絡、相談の徹底に努めるとともに、ひとつひとつの業務について丁寧に行いつつも迅速かつ正確に行えるようにしていきたい。

2-4 野中ハイツ I

利用者の一名が悪性腫瘍を発症、本人がグループホームで最後まで生活していきたいとの希望があり、旭中央病院等と連携をとりながら看取り支援を行い、9月に逝去により退去されるまでグループホームで生活をされた。

2月より、1名が入居し、現在は5名で生活を行っている。

年齢的にも高齢の方が増えてきており、訪問看護ステーション・ソフィアとの医療連携体制や訪問看護を利用し、病状の変化に対応できる体制を整えている。

月に一度、利用者が行きたい所を決めて外食・外出をすることを全員が楽しみにしており、継続して行かれるよう調整をしている。また、利用者の希望で筑波山への日帰り旅行に行っており、来年度も旅行へ行きたいという希望があった。

2-5 野中ハイツ II

1名については1年間情緒不安定な状態が続き、自傷や自室破損など続いてしまっており、5月に入院、退去となった。現在4名で生活をしており、1名が入居に向けて体験利用を行っている。

買い物支援については、希望がある限り行う事ができた。利用者ミーティングと共に継続して行っていきたい。

現在服薬管理が必要な利用者が2名おり、職員で薬を保管し、服薬確認を継続していたが、薬の自己管理までには至らなかった。

2-6 若衆内ハウス

現在、5名の利用者が日中デイケアや就労継続B型を利用しながら、生活を行っている。

季節に合わせて、外出支援を行っており、利用者の楽しみの一つともなっている為、今後も継続して支援をおこなっていく。また、来年度は東京へ日帰り旅行に行きたい希望があった。

喫煙については火災予防の為、決められた場所で喫煙を行うように継続して伝えている。

現在、一人暮らしへと移行していききたいとの希望がある利用者があり、相談等の支援を継続して行っていく。

地域活動の一環として、町内会のドブ掃除に利用者全員で参加をしている。

2-7 横大道ハウス

町内会への参加や近隣住民への挨拶等、地域交流は継続して行っている。

土日の余暇活動について、一人で買い物に出かける事が難しくなっている利用者があり、移動支援のヘルパーを利用している。

利用者の1名について、ほぼ毎日夕方に外出をしており、時々、警察に通報される事があった。本人には事故等がないよう注意喚起を行い、事故がないよう見守った。

スプリンクラーの設置工事を行った。

2-8 中川ハウス

重度知的障害者が入居しており、複数の支援者や事業者が関わっている。毎日のミーティングや、日中活動先との連絡会において情報共有し、支援を行った。

また、世話人の支援方法の違いによって、利用者が混乱をしないよう確認を行った。

入浴用のリフトを導入し、身体障害のある利用者のADL低下による転倒防止や、支援者の身体介護の負担軽減に努めている。

スプリンクラーの設置工事を行った。

2-9 萩園ハウス

週末は移動支援のヘルパーを活用し、プール教室や買い物、散歩など個別の関わりを大切にしている。これまで築いてきた地域との信頼関係を大切にし、地域のイベントにも積極的に参加している。

食材宅配サービスだけではなく、状況によっては利用者の希望に合わせた献立を提供することができた。

高齢の利用者もいる為、バランスの良い食事や運動を心がけていきたい。

2-10 東足洗ハウス

試泊を続けた後に7月より1名の利用者が入居したが、本人の希望で6ヶ月後に事業所内の別のハウスへ移行した。

現在、4名の利用者が他法人の生活介護事業所を利用しており、密に連絡をとりあいながら支援を行っている。

利用者の希望で、商工会主催のイルミネーションを見に行く事が出来た。

日々のバイタルチェックや、医療機関や日中活動先と連携して、日々の健康状態の確認を継続して行っている。今年度も地域のイベントへ参加等、地域との交流は継続して行っており、来年度も継続して支援していきたい。

2-11 西足洗ハウス

近隣住民との関係は利用者自身で挨拶や日常的な会話を積極的に行えており、良好である。利用者間の関係としては、精神症状に左右されて相手の症状に疲れてしまう事もあるため、世話人によるフォローが必要であった。また、交友関係の広い利用者もあり、対人面での課題があれば確認し本人と解決をしている。月1回の食事会・外出を継続して行っている。

10月に利用者の希望で水戸への一泊旅行を行っている。久しぶりの泊まりの旅行という事でゆっくりできてよかったとの事で、来年度以降もまた旅行へ行きたいと希望がでていた。

高齢化により認知能力の低下がみられる利用者もいる為、今後本人の状態に合わせた支援を注意して行っていく必要がある。

2-12 広原ハウス

5月に利用者1名が水腎症により入院した。1月には利用者の1名が拒薬、精神状態が安定しない為、休息入院となった。

入院中の利用者については、退院後の生活を見据え、医療機関との連携を行いながら支援体制の見直し等を行っている。

利用者の希望で利用者1名、職員1名で1泊2日の鎌倉旅行の実施、月1回ハウスの食事外出、季節に応じた外出を行っている。来年度も継続して外出や旅行等の企画・実施を行っていく。

自動火災報知設備と火災通報装置を設置した。

2-13 大割ハウス

今年度も計画通り、沖縄県に二泊で旅行へ行く事ができた。月1回の食事会も継続して行っている。高齢化により今までは本人のみで行っていた事も、職員が介入し一つ一つ確認しながら行っている。事業所内で最高齢の利用者もいるが、日中活動も含め、楽しい生活が送れるよう支援していきたい。

建物について、昭和47年4月建築後44年が経過し、老朽化が目立つことや、

東日本大震災時における天井や床、壁等各所に破損や傷みが認められることから屋根外壁等修繕工事を行った。

2-14 対馬ハウス

日中活動先・通院先が利用者ごとに複数あり、連絡調整について不備がないように支援を行った。利用者の些細な変化に注意し、その対応方法を関係機関と連携して調整対応している。入浴用のリフトを導入し、身体障害のある利用者のADL低下による転倒防止や、支援者の身体介護の負担軽減に努めている。

スプリンクラーの設置工事を行った。

2-15 下立ハウス

クロザリルの新薬投与をしている利用者の1名は、関係機関と連携して支援を行っていたが、精神状態が安定せず、職員への他害行為を行ってしまい入院中となっている。退院後の生活については関係機関と検討を行っている

利用者2名の血圧が高く、毎日の血圧測定、定期的な内科受診を行っている。

月1回の食事会、平日の買い物支援等、利用者が外出する機会の提供については、今後も継続して行っていく。

2-16 生沼ハウス

3名定員の女性のグループホーム。街中にあるグループホームということを生かしてデパートやコンビニなどへ買い物に行くなどして生活している。

今年度より10代の利用者1名が新たに入居となった。

2-17 矢指ハウス

各利用者のニーズに応じて、相談支援専門員と情報を共有し対応に努めた。トランスファー介助については、利用者・世話人がお互いに怪我を予防するため、介護方法の意見交換等の機会を複数回行った。

利用者ミーティングを新たに実施し、利用者が主体的に生活を出来るように意見交換出来る機会を作った。

2-18 小割ハウス

薬の副作用により、眠気が強くみられ日中の仮眠もみられていた為、薬の内服量の調整を行っている。

日中生活については週1回午前中に就労継続支援事業所へ通っているが、眠いという理由で現在は週に一回程度のペースでの通所となっている。毎月の外出については2人体制で行っている。

毎月のケース会議を主治医・家族・関係機関と行い、情報共有と対応方法の確認を行っている。

2-19 仲町ハウス

利用者の1名が悪性腫瘍を発症、本人よりグループホームで最後まで生活していきたいとの希望がでた為、旭中央病院等と連携をとりながら看取り支援を行い、10月に逝去により退去されるまでグループホームで生活をされた。

また、利用者の1名が他グループホームへと異動しており、現在は3名で生活している。

月1回の食事会については、継続して行っており、来年度以降も継続して食事会の機会を作っていく。

火災への対策として、防災訓練の際に、消防署職員から火の始末について説明

を受け、防災への意識を高めるよう支援を行っている。

関係機関との定期的な連絡会、必要に応じてのケース会議を行っており、状況に応じた関係機関との連携については今後も継続して行っていく。

ハウスの老朽化に伴い、平成29年5月に川間ハウスへの移転準備を行っている。

2-20 折戸ハウスⅠ

10月に1名が退去、7月と1月に計2名が入居され、現在6名が入居されている。

現在1ヶ月に一度食事会を行っており、利用者・世話人を交えてミーティングを行っている。希望があった際に買い物同行を行う等して、利用者が孤立しないよう継続して支援を行っていく必要がある。

必要に応じて関係機関とのケース会議、連絡会等を行っており、関係機関との連携については継続して行っていきたい。

2-21 折戸ハウスⅡ

利用者1名が単身生活へ移行し、現在4名の利用者が生活されている。

ワンルームアパートを1人で利用するという特性上、利用者が生活上の悩みを一人で抱え込みやすくなってしまふ為、利用者との対話する機会を増やし、本人が悩みを解決できるような環境作りを継続して行っている。

今年度は誕生日会や季節行事ごとで外出の機会の提供を積極的に行い、利用者からは今後も皆で外出する機会を作っていってほしいという希望があった。

利用者1名が高齢化により体力低下している為、来年度3階から2階へ居室の移動を予定している。

2-22 仲オハウス

アパートの一室を2人で使用するグループホームで、9月より利用希望者5名の体験利用を開始、1月に1名、2月に3名、3月に1名が入居している。また、11月より他ハウスより3名が転居、正式入居となったが、内1名については2月より他ハウスに再度転居しており、現在7名が入居している。

入居者の内5名は病院及び施設での生活が長かったせいか、グループホームでの生活について、「自由への喜び」「戸惑い」「不安」等を持っている感想があった。グループホームの生活に慣れる過程において、食事支援等細部にわたり支援を行うように努めている。

自動火災報知設備と火災通報装置を設置した。

IV 運営管理の概要

1 会議、委員会

毎月1回、下記の会議、委員会を行った。

- ・経営会議
- ・施設・事業所長会議
- ・法人グループホーム運営会議
- ・世話人会議
- ・各グループホームミーティング
- ・海上寮地域生活支援連絡会（隔週金曜日）
- ・旭中央病院連絡会
- ・地域生活支援連絡会

- ・総合安全対策委員会
- ・海匠世話人会議
- ・海匠設置者会（年2回）
- ・あい支援センター連絡会
- ・聖家族作業所連絡会
- ・その他、必要に応じて、ケース会議、調整会議を行う

2 地域との連携（交流）

2-1 行事

地域住民との連携については、野中地区の行事参加やもちつき大会において黒潮会の協力を頂くなど、交流の機会を継続的にもっている。

萩園ハウス	町内会活動（祭り・海岸清掃等）
若衆内ハウス	町内会活動（町内清掃・区民会館清掃等）
横大道ハウス	町内会活動（町内清掃等）
野中ハイツⅠ	町内会活動（町内清掃等）
野中ハイツⅡ	町内会活動（町内清掃等）
下立ハウス	町内会活動（町内清掃等）
対馬ハウス	町内会活動（町内清掃等）
大割ハウス	町内会活動（町内清掃等）
矢指ハウス	町内会活動（町内清掃等）
折戸ハウスⅠ	町内会活動（町内清掃等）
折戸ハウスⅡ	町内会活動（町内清掃等）

2-2 ボランティア

野中地区お囃子	11名	夕涼み会ボランティア
黒潮会	4名	もちつきボランティア
城西国際大学	学生1名	もちつきボランティア
	学生3名	ロザリオ福祉祭り
有志ボランティア	2名	もちつきボランティア
	2名	ロザリオ福祉祭り

2-3 見学者

28.	4.11	聖家族園	入居希望者
	5.25	聖路加国際病院	研修医
	6.7	聖路加国際病院	研修医
	6.27	聖家族園	入居希望者
	8.3	聖家族園	入居希望者
	9.2	旭中央病院	入居希望者
	9.13	聖路加国際病院	研修医
	10.25	友の家	入居希望者
	10.28	新規グループホーム	開設事業者見学
	11.1	聖路加国際病院	研修医
	11.18		入居希望者
	11.21	海上療養所	入居希望者
	11.22	聖路加国際病院	研修医
	11.29	聖路加国際病院	研修医

- 1 2. 1 旭中央病院 看護師見学
- 1 2. 6 聖路加国際病院研修医
- 1 2. 7 かんらん入居希望者
- 2 9. 1. 2 4 聖路加国際病院研修医
- 2. 1 4 聖路加国際病院研修医

その他、相談事業所、病院関係者、グループホーム利用希望者等に対して、随時見学案内を行った。

2-4 実習生

- 2 8. 1 0. 3 ~ 1 0. 2 0 1 0. 3 1 ~ 1 1. 1 6 城西国際大学 2名
- 2 8. 1 1. 1 5 ~ 1 1. 1 7 敬愛大学横芝高等学校 1名
- 2 9. 3. 1 3 ~ 2 8. 3. 1 6 岡山県美作大学 2名

3 防災、緊急時の対策

3-1 総合安全対策委員会

毎月の重点項目について、世話人会議・各ハウスミーティング等で、委員会から配布された資料を配布するなどして周知を行った。

毎年3回行われている各グループホームでの避難訓練について、世話人会議にて事前に机上訓練を行った。

3-2 防災訓練・防災対策

- 2 8. 6. 2 1 ・ 2 2 全グループホーム防災訓練（火事想定）
- 2 8. 9. 6 消防設備点検
- 2 8. 9. 7 合同防災訓練
- 2 9. 3. 7 消防設備点検
- 2 9. 3. 2 1 ・ 2 2 全グループホーム防災訓練（夜間 地震・津波想定）

4 福祉サービスの向上

福祉サービス共通基準の自己評価を全職員が実施し、結果を世話人会議にて報告した。

福祉サービス共通基準の評価においては全てA評価であったが、「利用者の相談や苦情受付の仕組み」の項目等、利用者や職員への周知が十分でない項目がいくつかあった。

5 権利擁護

虐待防止委員会を新たに設置し、虐待の起こらない環境の整備に努めた。世話人会議において虐待の予兆や発生に対する気づきの着眼点を持つために、早期発見チェックリストの確認をした。また、平成27年度都道府県・市区町村における障害者虐待への対応についてのデータを確認し虐待の傾向について学び、虐待の予防に努めた。

6 苦情解決

苦情受付・解決件数 1 件

西足洗ハイツ 近隣住民とのトラブルについて 1 件

7 情報公開

ホームページの開設を行い、随時更新を行っている。

8 職員の動向

8-1 職員の異動

28.	4	一條	加代子異動
28.	4	鷺山	暖佳退職
28.	7	加瀬	みよ子採用
28.	7	五味渕	礼乃採用
28.	9	布施	聖子退職
28.	11	加瀬	菜奈採用
29.	1	布施	聖子採用
29.	2	牧本	陽子採用
29.	3	根本	大輝退職

8-2 休暇等の状況

	人数	年間発生日数	取得日数	平均取得日数	取得率 (%)
常勤職員	8	121.9	66.6	8.3	54.6%
(昨年度)	(6)	(175.0)	(52.8)	(8.8)	(30.1%)
非常勤職員	33	440.0	390.2	11.8	88.7%
(昨年度)	(29)	(599.70)	(389.93)	(13.4)	(65.0%)
合計	41	561.9	456.8	11.1	81.3%
昨年度	(35)	(776.70)	(442.68)	(12.6)	(57.1%)

平成28年度は前年度より取得率の大幅な増加がみられたが、これは年間発生日数について、前年度からの繰越を含めない算出方法へ変更したことに起因するものと考えられる。平均取得日数で見れば、常勤はマイナス0.5日、非常勤はマイナス1.6日とほぼ横這いであり、今後も積極的な休暇取得と、推進のための環境づくりが求められる。職員の増員により業務負担の軽減から休暇取得につなげていくことができれば、来年度からの取得率増加にも期待ができると思われる。

8-3 衛生管理

全職員を対象に0-157の保菌検査及びインフルエンザの予防接種を行った。これらについて次年度以降も継続して実施していきたい。

8-4 研修

28.	6.	3~6.	5	全国グループホーム学会全国大会	In 沖縄
	6.	4		交通安全講習会	
	6.	24		世話人の集まり	
	6.	25		市民講座(旭匠瑤泌尿器研究会)	
	7.	7~7.	8	喀痰吸引研修	
	9.	14~9.	16	平成28年度サービス管理責任者等指導者養成研修	
	9.	3		第28回千葉県障害者グループホーム講座	
	10.	27		障害者グループホームセミナー	

- 1 1. 4 日本グループホーム学会主催（支援の難しい人の地域生活の場を広げる為には何が必要か）
- 1 2. 1 0 第8回千葉県障害者グループホーム大会（これからのグループホームみんなの思い）
- 2 9. 2. 8 リスクマネジメント勉強会（睡眠薬による転倒・転落事故防止を目指して）
- 3. 2 5 看取り介護講演会

9 補助金・助成金

千葉労働局職場定着支援助成金（介護福祉機器等助成）	1, 1 2 5, 0 0 0 円
千葉県障害者グループホーム整備費補助金（スプリンクラー設備整備）	
中川ハウス・対馬ハウス	2, 8 0 8, 0 0 0 円
横大道ハウス	2, 2 4 1, 0 0 0 円
東京都共同生活援助加算（江東区）	1, 1 9 8, 0 6 2 円
東京都共同生活援助加算（渋谷区）	5 3 6, 5 5 0 円
東京都共同生活援助加算（目黒区）	3 7 5, 9 5 0 円
障害者グループホーム運営費補助金（19市町）	1 0, 6 1 2, 5 6 0 円

1 0 自立支援給付費請求額

訓練等給付費収入	1 7 9, 4 0 8, 2 7 5 円
利用者負担金収入	3 1, 8 7 5 円
特定障害者特別給付費	9, 7 2 5, 3 8 7 円
合計	1 8 9, 1 6 5, 5 3 7 円

1 1 寄附物品（敬称略）

	寄附者	寄附内容
1	黒潮会	現金（5, 0 0 0 円）
2	石橋 啓子	米（3 0 k g）
3	根本 富美子	米（3 0 k g）

V 資料

別紙1 職種別職員一覧表（平成29年3月31日現在の職員数）

別紙2 組織図（平成29年3月31日現在の組織図）